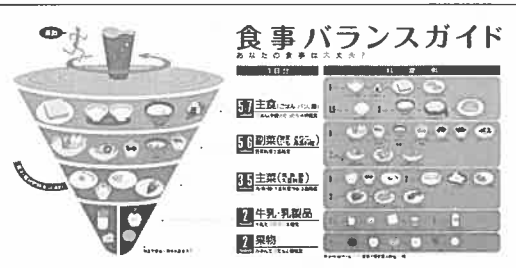


Q. 支援が過熱しすぎて自分を追い込み体調をこわす人も出てくるんじゃないかという懸念をお持ちの方もおられる。2007年、三重県伊勢市で「メタボ待 内臓脂肪を斬る」と題した企画に参加された健康福祉部の男性課長がジョギングかウォーキング中虚血性心不全で亡くなったという報道があったが、そのことについての市の認識は?

A. 生活習慣病は食べるものと量とのバランスが崩れて、そういう積み重ねで起こっているのが一番重要だと考える。食育講演会の開催やHPや広報などへの掲載も必要だと思いがどうか。

Q. 伊勢市の課長が亡くなったことについては、この保健指導ではそれぞれの方に合った指導をやっていきたい。無理なことを要求することはない。食育については今もこま形の栄養素のバランス表で周知を市民のみならずにしている。

A. 病気になる前からメタボになってから、というのではなく日頃からどういうものが体に良いのかなど食べ物についても基本的なことを知っていただく必要があるのではないのでしょうか。何よりも普段から



健康づくりや体調管理に無関心な方などに訴えていくのがいいのかもしれないということも今後考えていきたいと思っています。

3. 食育ボランティアについて

Q. 食育ボランティアの活動状況は

A. 府の食育推進ボランティアに登録されている市内在住の栄養士の方などを活用させていただくことも検討に入れながら食育推進基本計画をH19年度中に策定する予定。

Q. おとし(H18年)の12月議会でも離乳食講座にボランティアさんの活用を提案したが現在どのようなになっているのか。伊勢市では低カロリー食、バランス食のレシピを市のHPに載せておられる。幾らでも食育ボランティアさんの活躍の場があると考えるが市の認識は?

A. ボランティアで活動しておられるハッピースマイル応援隊という方たちに健康づくりの一環として子どもクッキングに参加していただきその調理に従事していただいている。

ちかこ… 茨木にもたくさん府の食育ボランティアに登録されている方々があり、本を出版されたり他市で講演されたりしているんですが、地元でやりがいを感じて過剰にいたできるように積極的に取り組みをお願いします。

ちかこのちかこ

http://ohnochikako.com
info@ohnochikako.com



大野ちかこ事務所
〒567-0806
茨木市庄二丁目25番23号
TEL 072-622-8615
FAX 072-625-0934

茨木市議会事務局
〒567-8505
茨木市駅前三丁目8番13号
茨木市役所本館4階
TEL 072-620-1670

こんにちはは大野ちかこです

みなさん、こんにちは。元気でお過ごしですか。ニュースでも連日取り上げられている長寿医療制度(後期高齢者医療制度)、特定健康診査(メタボ検診)、放課後子どもプランなど今年度、茨木市においても新しい事業が次々と始まっています。改善すべき点などは積極的に発言していき、より分かりやすく情報をお伝えさせていただきます。

去年の12月議会では特別支援教育、妊婦検診について、今年の3月議会では市内の授乳室、特定健康診査、食育ボランティアについて質問しました。その内容を「ご覧下さい。引き続き市政に対する忌憚のないご意見や、まちづくりのアイデア、思いをお聞かせください。」



H20年(2008年)6月議会で大野が所属する会派「民主みらい」の代表質問をする様子

いわゆる地盤・看板(知名度・カバン)お金など何もない状態での選挙で当選させていたから丸3年が経ちました。これまで福祉のことや、より使い易い公共施設のあり方、防災対策、次世代育成支援、ゴミ減量施策、自殺対策、食育、地産地消の取り組み、投票率アップ策、いろんな世代が交わる居場所づくりなどに取り組んできました。

市民のみなさんのご努力もあって、形にできた部分もありますが、私自身、もっともっと頑張らなかなあという思いです。私はみなさんに頭ごなしに「市政に関心を持ってください。」というつもりはありません。地味かもしれませんが、こういうチラシや街頭演説、その他日頃からみなさんの目に見える形で活動することで議員や、議会、市政を身近に感じていた



議会の傍聴にお越しください!

3月・6月・9月・12月に茨木市定例市議会が開催されています。
ご都合のつく方は是非、議会の傍聴にお越しください。
私たちにとって一番身近な政治が市政です。私たち議員の姿勢や、行政の対応を見た感想やご意見をじゃんじゃんお聞かせください。

ちかこのお願い

ちかこのちかこと一緒に配って下さる方、お店などに置いて下さる方おられませんか。
なるべくお金をかけない活動を心がけています。何枚からでも構いません。
ご連絡をいただき次第、こちらから伺います。

ちかこのご報告

大野ちかこはH20年(2008年)1月19日(土)に男の子を出産しました。
これからもいろいろなことを学びながら楽しみながら、活動と子育て共にがんばってまいりますのでよろしくお願ひ致します。



民生常任委員会で、東京都武蔵野市へ子育て支援について視察に行った時の様子

だくことが重要だと考えています。たとえば、私たちが払っている税金がもし手元に残るとしたら、何に使おうか、貯金しようか、きつとみなさんは慎重に考えられるのではないのでしょうか。そういう感覚で茨木市の税金の使い道についても興味を持っていただけるように、活動報告も工夫して作っていきます。また日本全体の問題でもある若者の政治離れ。自分の身近な人たちはもちろん、全然知らない人たちにも「政治に無関心でいることはできません、無関係でいることはできない。」ということを理解してもらえようように今後も訴えていきます。というわけで4年目もまじめに気持ちまっすぐがんばりますのでよろしくお願ひいたします。

H19年(2007年)12月議会のちかこの一般質問

1. 特別支援教育について

ちかこQ.
児童の発達相談の窓口となっている教育研究所の巡回相談員は何名おられるのか。特別支援教育コーディネーターとの連携の状況は？また、相談に来られた保護者の方への対応はどのようにされているのか。



八木学校教育部長 A.

特別支援教育士等の資格を持つ相談員が学校からの要請により巡回相談を実施。H19年度は相談員を2名増員し、3名体制とし、H19年10月末現在、46校に対し98回の巡回相談を実施。

巡回相談では事前の打ち合わせ等も含め、学校側の窓口である特別支援教育コーディネーターとさき細かく連携をとっている。

発達相談については発達に課題をもつ児童、生徒やその保護者に対して、学習・生活・進路などについて指導・助言をしており、本年度は相談員を1名増員し、5名体制で実施。H19年10月末現在、相談件数は365件のべ291回となっている。

Q. 発達相談に行かれた保護者の中には、専門用語や詳しいお子さんの状況を担任の先生などに十分説明しきれなくて困る、という方もおられる。自分の子どもが発達検査で要配慮児の結果が出たことを保護者が認めたくないもの、学校では要配慮児として接しているという場合、誰がどのような対応を行っているのか。また校内委員会と養護学校との連携の状況、中学校の養護学級を卒業された方々の進路状況は？

A. 保護者が希望する場合は、学校の教職員と相談員が直接面談し、対象児の特性を踏まえた学校での支援のあり方について助言を行っている。なお、H19年10月末現在の教職員との相談回数は98回で、来所された教職員は153名となっている。

保護者が子どもの障害を認めたくない場合は、保護者の意向を十分尊重しながら児童・本人にとってどのような指導・支援が一番良いのか保護者と担任等が共に考え、専門的な相談機関等の情報提供をしている。

地域の小中学校との連携については養護学校の教員が地域の小中学校の要請を受けて巡回相談を行っている。本市主催で夏休みに「なかよしキャンプ」秋の「やってみよう運動会」をはじめ各学校行事に養護学校の児童・生徒が参加し、相互交流を行っている。進路状況についてはH19年3月に本市中学校の養護学級を卒業した生徒は26人で、そ

H20年(2008年)3月議会・民生常任委員会でのちかこの質問

1. 市内の施設の授乳室について

Q. 市内の公共施設で授乳室があるのはどこか？

A. 市役所本館1階北側、男女共生センターローズWAM、子育て支援総合センター内ぼっぼルーム、生涯学習センターきらめき、健康増進センター(※検診時のみ)



Q. 今後の授乳室の設置の予定は？市民の要望などは聞いているか？

A. 今は満足していただけかかと考えており、今後も新しい設置の予定はない。

ちかこ：市役所本庁だけでなく各出張所にも授乳室が設けられているところや、施設以外の駅やショッピングセンター、レストランなど市内の授乳室の状況についてもお知らせしている自治体があります。茨木市でも積極的にお知らせして行ってもらいたいと思います。

小さい子どもを連れて出かけるのは案外大変だと私も実感しているところですが、そんな状況でも外に出かけやすくなる工夫、出かけようと思っただけの工夫が虐待の予防にも繋がると考えます。

2. 特定健康診査(特定検診)について

Q. 特定検診の実施日と特定保険指導の実施日は？また支援の仕方は？支援の後、成果が表れなかった方への対応は？

A. 特定検診の実施日は市民のデータを作った送という流れで、だいたい6月からの予定。保健指導については受診結果をもって①動機付け支援②積極的支援③情報の提供の3段階に分けてそれぞれ受診者に渡るので、受診されてから2〜3か月後になる予定。

支援の仕方は最初に該当者を集め、面談し、指導内容をご説明する。積極的支援：電話や面談で運動あるいは生活習慣の改善ということを実際に行っていたら、6か月後にその評価をする。

動機付け支援：最初に面談した後目標設定をそれぞれ対象者にお願ひし、6か月後にその評価をする。その間は、自分で継続的にやっていたら、その間の支援も行う。

目標が達成できない時には、後期高齢者支援金に加算、減産があるので後期高齢者の保険料に影響が出てくるのではないかと考えている。



(3月議会次面へ続く)

の進路は、茨木養護学校20人、全日制高等学校知的障害生徒自立支援コースに2人、専修学校に2人、専門学校に1人、通信制単位制高等学校1人。

ちかこ：H17年(2005年)より文部科学省から

特別支援教育における研究開発学校の指定を受けておられる高槻市の五領小学校では通常教室でも一日の予定、時間を視覚的にわかりやすく配慮されていたり、集団学習スペース、リラクゼーションなどがきちっと区別されており、生徒一人ひとりの教育ニーズに応じた学習指導が行われています。茨木市の場合、五領小学校のように国からの予算がないので厳しい面もあるとは思いますが、人の配置などは違い、こういったことはいくらでも工夫ができると考えます。

12月議会民生常任委員会でのちかこの質問

1. 妊婦検診の啓発について

検診を受けておらず、かかりつけ医のいない方の飛び込み出産の多くは妊娠への対応がわからなかった若い未婚女性、低所得の経産婦、不法滞在の外国人だと言われています。

厚生労働省はH19年(2007年)、検



診を受けない妊婦が増えている実態を踏まえて最低でも5回妊婦検診の公費負担をするよう各都道府県に通知。茨木市では2回から3回に増えたのは良いですが、高槻市では1回から5回に増やされ、14回公費負担している市もあります。今後、拡充と、受診を促す体制の整備に取り組んでいただくよう要望しました。

2. 特別支援教育について

Q. 障害福祉課としてどういった認識を持って

A. 教育という観点での施策だと認識。就学指導委員会設置しているし、障害福祉課としても積極的に関わっていききたい。

Q. 特別支援教育のことを障害福祉課のHPにも載せるべきだと考えるがどうか。

A. 教育委員会と調整し、どのような方法があるか検討していきたい。
※障害福祉課のHPでも特別支援教育についてのことが見られるようになりました。どうぞご覧下さい。

ちかこ：小・中学校以降の進学、就職をサポートするには、教育、医療、福祉、地域、労働、各関係機関との連携が不可欠。障害者自立支援法でも謳われている、地域で生活するという点については現状はまだまだ整っていないと現場のお声がありますが、今後よりしっかりとした啓発や取り組みを望みます。